
仮面ライダー 5 5 5 × とある科学

投光

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダー 555 × とある科学

【著者名】

Z4989Z

【作者名】 投光

【あらすじ】

仮面ライダーと科学が交差するとも、黒きボディが赤に変わ
る

「」は、学園都市でもかなり広い施設の一角、見
た田社長室…といわんばかりの
豪華さのある部屋の入り口に近い机に座っている女
子が書類整理に没頭している

「・・・これど、あれは提出で、これは・・・は?領
収書?」

15歳ぐらいの女の子は、見覚えのない紙に驚き、「」
にいる入り口から少し歩いた所の
正面の机に座っている男に声をかける

「ねえ?これ・・なにかな~」

紙を見せて笑つてない笑顔で男に声をかける

男は学園都市の中では不恰好な携帯を開きながら答える

「なにして、領収書」

即答だつた

「ああ~、もつ!また勝手に組織のお金使つてえ~!今

回なに食べたのよ」

「パフェ10、ケーキ16、『一ヒー9かな』

「きいこいいいいいいい

方を見る
女の子は自分の髪を両手で搔き終わった後、再び男の方を見る

「・・・今日は、仕方なく、仕方なく許してあげるから」

男は驚いた、だつていつもなら説教が永遠と続くからだ

「『仕方なく』を強調するんじゃねえよ、さあ小桜」

「あんたにいつたって、『無駄』なのは、私でもわかるわよ」

今度は『無駄』を強調されて男はやれやれといった口調で話を変える

「で、怒つてないとしたら何なんだ?」

さあ小桜と呼ばれた女の子は一呼吸ついた

「・・・ふう、最近私達が守っている区域で感電して黒焦げになつている人間や発電所がいかれて停電が頻発してるので、知つていいでしょ」

「ああ、俺のアパートも前の停電をきっかけで停電対策をするつてたな」

「今回の仕事はその子の更生よ」

「と、言つと俺に何をしろと?」

「その子のそばで問題行動を起させないと、これは別件でオルフェノク増殖の謎を調査してほしいのと、これに関連してその子の保護を」

オルフェノクといつ言葉に男は動きを止めた、最近学園都市の中で、死人が生き返り、謎の超能力、突然変異メタモルフォーゼを使って人を襲つているらしい

「で?俺に何でその問題児を保護しなきゃならな

」

「超能力者(レベル5)」

再び男の動きが止まり今度は小桜を上目で見る

「資料と詳しい詳細はこの封筒にあるから

「じゃあ私、資料出してくるからね、巧たくみ」

小桜は封筒をパンパンとたたくと部屋を出て行つた

「・・・・ふつまいいか、あんなこと死んでも変

わらんか」

男は不恰好な携帯とアタッシュケース、封筒を持つ

て出て行つた

しかいない

電気を使えその上超能力者（レベル5）といえば一人

「…………御坂 美琴か」

「二人とも今回から風紀委員になる

」

「せつこうだくみ
赤光巧

交感音をつけるならシーランだろ」沈黙が続いた

「あの……そ、それだけですか？」

沈黙に耐えれなくなつた花飾りを頭につけた女の子が質問する

「もつ、巧くん!ちゃんとして」

隣にいた国法が子供をしかる口調で言つ

「……ったく、俺はお前ガキか!国法!」

二人は知り合い見たいが巧の国法の関係は今は説明はしないでおこう

「いくらやつても仕方がないわ、じゃあ一人の自己紹介を

「「はい／わかりましたわ」」

「では、まず私が

花飾りをつけた女の子が手を上げる

「えつと、堀川中学一年、初春飾利です」

「私は、常盤台中学一年、白井黒子ですわ」

さすがに、あよろしくの声が来ると思ったのか手で握手
しようとした二人だがそれは裏切られた

なぜなら、

「・・・・・・・・う、ふう・・・・・

何も言わずに出て行こうとしたからだ

「あ、あなた！ふざけているのですか！」

「そ、そりですひどいですよー！巧さん

二人とも怒っているが巧には関係ない

「国法！俺は今から人探しをスッからじやあな！」

そのまま謝らず出て行つた

「な・・なんですのーあの方は殺すー！」

黒子は鞄から釘みたいなものを出したりするが国法に邪魔されてしまう

「…………めんなさい、白井さん、初春さん」

先輩が謝るなんて予想外だったので一人は戸惑う

「せ、先輩なんですか？」

その言葉に戸惑うが、悲しい顔をした先輩にこれ以上の質問はやめたほうがいいと一人は思った

「…………でも、彼、誰を探しているんでしょうね」

暗い話題を変えようと国法はドアのほうを見る

「あらっ、なにかしら？」

ドアの近くにいた黒子が落ちていたものをとる

「…………これは」

「いや、なんで彼が風紀委員にいるか説明をしなければならない、今回の任務はターゲット（ここでは御坂 美琴のこと）との接触しないといけないので、ターゲットと相部屋の白井 黒子と同じ支部の風紀委員をし、接触をはかれという感じだ

のよー!』

『えーーー! じゃあ、白井 黒子と一緒にやつたりになつた

心配してかけてきた小桜は案の定のセリフをばく

「つるせーーーし、てか一試合はこります、だー!」

めんぐくわざわざ頭をぼりぼり搔きながら答える

「はーーー、後で国法先輩には私から謝りとくわ

「ん、じゃあな

「あ、ちょっとたべ

巧はこきなり通話を切る、そして不恰好な携帯もポケツトにしてしまう

「なんだ、白井 黒子

「あらっあれじゃあ私達の名前も聞いてなこと思いましてわ

「これはなんですか？」

そこには、御坂 美琴が書いた写真があった

「あ、・・・・・・・・」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4989z/>

仮面ライダー555×とある科学

2011年12月17日20時47分発行